

3. 稚アユの放流

鈴木規夫・安部直哉

県内の各漁業権河川は各種開発事業により大小のダムの設置又砂利採取により生息魚種の生活域の減少

表 6 稚アユ放流事業一覧表

漁業協同組合名	河 川 名	放 流 場 所	放 流 尾 数	放流年月日
酒 匂 川 漁 協	酒 匂 川	谷 峨	3 0 0 0 0	1964. 3. 30
同 上	同 上	十 文 字 橋	3 0 0 0 0	1964. 3. 31
相 模 川 漁 協	相 模 川	田 名	3 0 0 0 0	同 上
同 上	中 津 川	日 向 橋	3 0 0 0 0	同 上
同 上	道 志 川	青 根 , 東 野	3 0 0 0 0	同 上
川 崎 河 川	多 摩 川	二 子 橋	3 0 0 0 0	同 上
早 川 河 川	早 川	三 枚 橋	2 0 0 0 0	同 上

と荒廃が著しく、河川漁業の主幹であるアユの漁獲量は次第に減少している。地元漁業協同組合ではこの対策として稚アユの放流事業を行っているが、この事業の公共的性格により、当场でも20万尾の相模湾産海産稚アユを購入し県内6河川に昭和39年3月に放流し、アユの資源維持と漁業の振興を計った。

(表6参照)